

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称		平成 30 年度第 5 回つくば市未来構想等審議会	
開催日時		平成 31 年 3 月 13 日 開会 15 : 30 閉会 17 : 10	
開催場所		つくば市役所 5 階庁議室	
事務局 (担当課)		政策イノベーション部企画経営課	
出席者	委員	神谷大蔵、山本美和、大澤義明、高谷榮司、市川一隆、桜井姚、小玉喜三郎、宇津野茂樹、山海嘉之、生田目美紀、大島慎子、森博徳、中井聖、伊藤達也、坂本義治、中嶋信美、永井悦子、中嶋修、西美佳、林亮、山口圭一、横田直巳、飯野哲雄、毛塚幹人、門脇厚司 計 25 名	
	その他	未来構想等策定職員ワーキングチームメンバー	
	事務局	神部政策イノベーション部長、片野政策イノベーション部次長、大越企画経営課長、課員 6 名	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 6 名
議題		(1) 将来フレーム推計の実施状況について (2) 未来構想改定骨子 (案) について (3) 未来像提案の為のプレゼンテーションについて	
会議次第	【第 5 回つくば市未来構想等審議会】		
	1	開会	
	2	報告	
	(1)	第 4 回審議会の開催報告	
	3	議事	
	(1)	未来像の追加及び修正とまちづくりの理念の再整理について	
	(2)	将来フレーム推計の実施状況について	
	(3)	土地利用構想改定の検討状況について	
4	閉会		
審議内容			
1 開式			
事務局：只今より第 5 回つくば市未来構想等審議会を開会いたします。私は、つくば市政策イノベーション部次長の片野でございます。よろしくお願ひいたします。本日は、ただいまの時点で 22 名の委員の方に御参加いただいております。会議開催要件の過半数を満たしていることを御報告いたします。はじめに、市長の五十嵐より御挨拶申し上げます。			
五十嵐市長：本日も多くの委員の方々に御参加いただき、誠にありがとうございます			

ます。前回は1月30日に開催した第4回審議会で、2030年の未来像について職員ワーキングチームからプレゼンを行い、委員の皆様方から貴重な御意見をいただきました。本日はいただいた意見をもとに未来像の修正や追加提案をさせていただきたいと思っております。あわせて、これまで庁内の専門部会を中心に検討してきました、土地利用構想につきまして、御意見をさせていただきたいと思っております。2年間の改定期間うちの1年目が終わるということで、未来構想を作る多くの要素が徐々に形になってきました。来年度は、未来構想と合わせて、未来像の実現に向けた戦略を策定していくこととなりますが、広く市民の方との意見交換等を通してよりよいものにしていきたいと考えております。審議会も今年度最後の回となりますが、これまで同様活発な意見交換をお願いできればと思います。それでは、本日も議題が盛りだくさんとなっておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。私もオブザーバーとして参加させていただきます。

事務局：ありがとうございました。

会長：みなさまこんにちは。当審議会も今年度最後の第5回となりました。前回は職員ワーキングチームからプレゼンがあり、未来像について御審議いただきました。多くの委員の方から活発な御意見をいただき、会議後も御意見が事務局に寄せられたようです。本日も先ほど市長からありましたとおり2030年の未来像について修正や追加の提案があり、その他、財政見通しや土地利用構想改定の検討状況等の審議事項がありますので前回同様活発な議論となるようお願いしたいと思います。それでは、議題に入ります。

2 報告

【報告（1）第4回審議会の開催報告】

会長：報告1 第4回審議会の意見と対応方針について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（報告1の概要を説明。）

会長：只今の内容について御質問等がありますか。

（各委員からの質問は特になし）

会長：特に御意見無いようですので、次に進みます。

3 議事

【議事（1）未来像の追加及び修正について】

会長：続いて、議事の一つ目、（1）未来像の追加及び修正とまちづくりの理念の再整理について、未来像の追加及び修正のためのプレゼンテーションについて事務局から説明をお願いします。

事務局：（プレゼンテーションの概要について説明。）

【（1）職員ワーキングチームが提案する「つくば市の 2030 年の未来像」追加提案と修正案 理念Ⅰ 誰一人残されず、自分らしく生きられる《包摂都市》について】

会長：ありがとうございます。只今の内容について御質問等がありますか。

委員：一つ、支えあう福祉、安心のまちということですが、この中で例えば高齢者の介護や医療の充実といったものは取り上げていないのでしょうか。福祉と、生涯現役について書いてあるわけで、お年寄りの方で介護を必要とする方や、医療に頼って生活している弱者の救済についてはここではなく違うところでしょうか。その1点だけお聞かせいただければと思います。

WT：高齢者支援や介護も1番に全て含めているつもりです。今後戦略を具体的にする中できちんと明確化していきます。

委員：分かりました。高齢者などの弱者の御対応がどうなのかという質問をさせていただきます。ありがとうございました。

会長：ありがとうございます。今の話題も1番だけ入るのではなく色んなところに入ってくるのではないかと思います。他いかがでしょうか。お願いします。

委員：1番と2番に関係することだと思うのですが、1番の方は障害のある方の支援がメインになっているので、障害のある方の活躍はどこに入れたらいいのか気になりました。2番に関してはたとえ障害があった場合でもその人なりの健康というのがあるので、その部分をどのように触れていけば自分らしい健康でいい、ということが伝わるのか気になりました。

会長：それでは回答をお願いします。

WT：ありがとうございます。ハンデがある方の活躍の場や多様性を認めるという点は、この後の8番の未来像に出てくるのでそこで包含できればと思ってお

ります。ありがとうございます。

会長：いかがでしょうか。それでは一旦理念2に移り、また後程理念1に戻りたいと思います。理念2について6番から9番まで発表をお願いしたいと思います。

【（1）職員ワーキングチームが提案する「つくば市の2030年の未来像」追加提案と修正案 理念Ⅱ 人が集い、自ら考えられる人が育つ《人材都市》について】

会長：ありがとうございます。

委員：8番の「多彩な個性が活きるまち」で、先ほど障害がある方ない方に関わらずというお話がありましたが、障害のある方の活躍する場ということもここに含まれるということで、その言葉を入れた方がやはり分かりやすいのではないかと思います。

大澤会長：それでは回答をお願いします。

WT：ありがとうございます。確かに性別国籍年齢というフレーズしか出てきていないので障害についても明文化するか検討したいと思います。ありがとうございます。

会長：ありがとうございます。他いかがでしょうか。委員をお願いします。

委員：8番の「多彩な個性が活きるまち」の中で高齢者のことは書いてあり、前の2番のところでも高齢者の社会参加のことが書いてあるのですが、もう少し積極的に参加していただかないと多分持たないと思うので、イメージとしては実際に高齢者の方が社会の中での活動がないと困る、等の積極的な書き方をしていただけるといいかなと思いました。現実問題、70歳くらいまで働かないといけなくなっています。

会長：回答をお願いします。

WT：ありがとうございます。2番において、生涯現役で輝けるという土壌を生み出し、ひいてはそれにより社会参加が活発になり、高齢者が社会に参画することで労働力として社会貢献していくことを目指すという、二次的効果には言及しているのですが、もっと積極的な方がいいという御意見をいただきました。

ので検討したいと思います。ありがとうございます。

会長：はい、ありがとうございます。他どうでしょうか。若い人の活躍を阻害しない程度ということですね。当然若い人にはがんばってもらって、我々がサポートするということだと思います。ではこちらも一旦進めさせていただければと思います。それでは22頁「理念Ⅲ科学技術をいかし人を豊かにする」について10番から13番まで御説明をお願いいたします。

【（１）職員ワーキングチームが提案する「つくば市の2030年の未来像」追加提案と修正案 理念Ⅲ 科学技術をいかし人を豊かにする《科学技術都市》について】

会長：ありがとうございます。理念Ⅲについて御説明いただきました。御質問、御不明な点がありましたらお願いします。

委員：修正していただいたり、加えていただいたり、大変斬新で魅力的な未来を描いていただいて、非常にいいなと思っております。例えば、「13交流ができるまち」というのは目的なわけですが、背景の3つ目のところに「移動できるようにする必要がある」と書いてあり、それは背景としていつているのか、移動できるようにすることを目的とする、あるいは目指すという目的がここに書かれているのか。実は他の未来像のところにも、そういう風を書いてあるところもあります。「目指す」と書いてあるところもありますし、あるいは「目指す必要がある」等いろいろな書きぶりがあり、文章上の表現かと思いますが、できたらぜひ「目指す」とか「目的とする」と書いていただくと良いと思います。これ以降の議論はもしかすると来年度、具体的な議論になるかと思いますが、全体の必要性だけではなく、その方向を目指すという選択をしていくわけですので、その辺についても主旨を御説明いただくとありがたいです。

事務局：こちらの点については、事務局から御説明させていただきます。御指摘いただいたように表現の仕方が様々になっておりますので、未来像を目指す、そういうものを実現するという形で表現を統一したいと思います。以降、修正等を行う際に見直しをして統一を図っていきたいと思います。

会長：委員がおっしゃるように少しそこが曖昧になっているので、もう少し踏み込んだ表現がよろしいかと思います。委員お願いします。

委員：13のところではモビリティについて色々書かれているのですが、シェアサイクルについての記載があればよりつくばらしいのではないかと思います。よ

く海外では MaaS の例でシェアサイクルと一体化となっているパターンも結構あるので、つくば市にはりんりんロードがありますし、シェアサイクルもあるとより具体的で良いのかなと思いました。あと、MaaS のエスが太文字だったような気がするのですが、間違いでなければ直していただければと思います。以上です。

会長：どうでしょうか。

WT：御指摘ありがとうございます。今回あまりたくさん入れるとどんどん大きくなってしまいますので絞らせていただいたのですが、おっしゃるとおり、シェアサイクルというのは重要な単語だと思いますので追加したいと思います。ありがとうございます。

会長：はい、よろしくお願ひします。あとは電動キックボード等色々あるかと思ひますのでそこを選択していただければと思います。あと MaaS のところも太文字だと思いますので修正をお願いします。他どうでしょうか。それでは理念 4 に進めさせていただきます。

【（１）職員ワーキングチームが提案する「つくば市の 2030 年の未来像」追加提案と修正案 理念Ⅳ まちの魅力を市民が共に創る《共創都市》について】

会長：ありがとうございます。只今の内容について御質問等がありますでしょうか。

委員：共創都市というのは、市民が積極的に登場する分野になると思うのですが、14 頁の「災害に強く、自主防災力が活きるまち」というところですが、「形にとらわれない多様なコミュニティで人が繋がり」というのが、前回委員から地域コミュニティや多様なステークホルダーの存在を入れた方がいいのではないかという意見を受けてのことだと思うのですが、この多様なコミュニティというのは人と人が話し合ったり対話を重ねて地域を作っていく、という意味で、共創都市の中でこの要素が一つ入った方がいいのではないかと思います。防災のところだけで終わらせてしまうのではなく、例えば「地元で頑張る組織や人が成長し続けるまち」というのは産業だけでなく、地域で色々な問題、課題を解決していくという要素があればいいなと思います。いかがでしょうか。

会長：回答をお願いします。

WT：御指摘ありがとうございます。私の身の回りにももちろん農家の方や、個人で商店をしている方など、地元でがんばっている人がいますので地域の課題に積極的に関わっていただいて、単に仕事というだけではなく地域として成長していくということと一緒に考えていく仕組みになっていくといいなと思っております。御指摘ありがとうございます。

会長：他どうでしょうか。今まで理念4の説明をいただきましたが、理念1～4の御指摘もいただきたいと思えます。よろしいでしょうか。私個人としては若い職員ががんばっているなということで、よく勉強もしているし新しい情報もつかみながら考えられていると思えます。まず本日これを基盤にしながら理念、考え方を整理していきたいと思えます。御発表いただいた方々に感謝したいと思います。どうもありがとうございます。できれば皆さんで拍手を。それでは資料1－2に移ります。

【議事（1）まちづくりの理念の再整理について】

会長：まちづくりの理念の再整理について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料1－1、資料1－2を用いてまちづくりの理念の再整理について説明。）

会長：ありがとうございます。今の御説明について何か御質問等ございますか。36頁のように理念が4つありそれぞれ未来像を紐付けしたということです。これは案ですので、今後議論しながら、表現を変える等ということを行っていきたく思っております。よろしいでしょうか。それでは冊子と別に委員から未来像の整理、理念に関して御意見をいただいておりますので、こちらのA4資料の御説明をお願いしたいと思います。

委員：よろしく申し上げます。前回事務局の方から先ほどと同じように理念4本柱の形で承りました。それに関して、少し分かり辛いのではないかと個人的には思ひまして、これまでの委員の皆様からでた意見を私なりにまとめさせていただきました。それが右上に資料1－2関連となっている1枚紙です。少し時間を頂戴して提案をさせていただければと思ひます。以降失礼して座らせていただきます。理念の部分ですが、簡潔に「未来をつくるまち」、「挑戦を応援するまち」、「顔と顔が見えるまち」と3本にまとめてみてはいかがでしょうかというのが提案です。事務局の4本柱というのは昨年2月にSDGsの考え方をベースにした持続可能都市ビジョンをつくば市の方で作られており、それに沿うように皆さんの意見をそこに落とし込むような形で作られているのが事務

局の案の意味だと思えます。そうしますと包摂都市と言った表現について、つくば市に関わる老若男女皆さんに共有していただける言葉なのか、と違和感を覚えました。やはり誰しもが分かる、共感してもらえる、簡潔な表現を目指したいと思います。理念の中身をそれぞれ説明させていただきますと、「未来をつくるまち」というのは委員からお話がありました課題解決型のイノベーション都市というのをベースに考えています。イノベーションと題してもよかったのですが、どうしても技術革新と狭くとらわれがちです。当面そういった新しい技術を取り込んでいくため、また、五十嵐市長からも前回お話がありました、そういった技術を社会に実装していくためには交通法規などのあり方全体を変えていく場合もあるという、広い意味で未来をつくるという風な表現で謳う、というのが提案です。2本目、「挑戦を応援するまち」について、これはまさに委員からお話がありました。そういった挑戦を応援したいなど。それを大人がすることによって子どもたちの「私達も頑張ろう」ということを引き出したい、成長を生み出したいというような話がありました。非常に共感したため、項目として入れさせていただきました。当然スタートアップやベンチャーに対する支援もこの柱の中に入ってくるかと思えます。「顔と顔が見えるまち」について、これは当然福祉やそういったものも大事です。また、荃崎地区の方から、人口流出でコミュニティの存続を憂うお話もありました。また、委員から、急激な人口の集中的な増加、そういったものに対するインフラの課題、過重な負担といったものについても御指摘がありました。やはりそういったものは違うだろうと、つくばの目指すところというのは調和の取れたコミュニティだろうと思えます。そういったところを通じて、例えば市民と市民が会う、研究者と研究者が会う、非常にたくさんの多様な人々が揃っているが、まだまだそれらが結び合うことで生み出されるものがあるだろうという、その余地を引き出したいという思いを込めての「顔と顔が見えるまち」という表現にしました。そしてその下、3つの円で表現させていただきました。事務局、つくば市が大事にしたいというSDGsの考え方や持続可能都市ビジョンとの関係をこのようにまとめたらいかがですかという提案です。例えば未来をつくる、挑戦を応援する、が重なった先には「科学技術都市」が見える。挑戦を応援する、顔と顔が見えるところに「人材を大事にするまち」が見える。3つが重なったところは「ともに作る」といった未来のまちづくりが見えてくると思えます。未来をつくるというと、東京都心でも謳うことができますと思えますが、顔と顔が見えるかといえはまた別の話です。挑戦を応援するといっても未来をつくるための基盤が伴っていない。この3つの柱を兼ね備えているのはつくば市の強みであると思えます。更にその3つが重なっているところは我々の目指すゴールに非常に近づいているという描き方ができると思っています。あとは事務局の方から理念の部分の状態を示すという表現がありましたが、やはり理念ですからこういう風にやるという心持を現した方がいいのかと思っています。さ

らに、主語をあえて入れないというお話がありましたが、私の案では、あえて主語が入る形にしました。ステークホルダー、市民が未来を作り、企業と企業が挑戦を応援し、顔と顔が見えるようにする、そういう風につくば市に関わる人達が皆共感できる主語が入るような表現とさせていただきました。もちろん日々暮らす中、仕事をする中で、SDGsを考えながらやるのは素晴らしいことだと思いますが、最初に感じた違和感というのは、やはり借りてきた言葉かなと私は思います。未来構想の理念、一番コアな部分ですので、つくば市で暮らし、仕事をして学んでいくという人達からでた言葉をまとめさせていただきました。そういった言葉で理念を作られた方がいいのかと私は思います。委員の皆さんの意見があることを願っています。ありがとうございます。

会長：はい、ありがとうございます。36頁の提案と、委員の考えをふまえ、4つの要素を3つに組み込んだという内容だと思います。このことについて御意見いただきたいと思います。

委員：今のお話について、言葉が柔らかくて分かりやすいなと感じました。先ほどこちらの職員ワーキングチームで作ってくださっている内容もしっかりと作られているので、個別の内容を見てみるととてもいい内容だと思います。先ほど御指摘があったように、目的を書くのであれば、「〇〇を目的とする」と書かないと、私の目から見ても目指すというのは「しない」あるいは「できなくても良い」といったニュアンスに感じられます。本気でやるなら、目的とする。到達しなくても、マイルストーンをセッティングすればいいわけですから、修正等を行う際に目的という言葉を入れていただけると良いかと思います。理念の4つを見ると、重なっている部分もありどこから見るかによって見え方も異なると思います。科学技術にしても何のための科学技術か、といった時に、人が社会に生きていくことを支えるための科学技術もあれば、例えば人生100年時代を健康で生きていくためのものもあるでしょう。そういう意味では実はここに書かれている内容の多くはそれぞれ多くの部分が重なっているので、今回作られたものは素晴らしいと思います。例えば、一枚ずつカードにしてうまくボードにでも貼って皆でブレインストーミングしていくと、もう少し別の形でまとめていけるのではないかと思っていました。それを今回委員の方から「未来をつくる」、「挑戦を応援する」、「人の顔と顔が見える」というキーワードが出され、これを上手に交わらせて表現していますね。本当はもう少し三次元的な球のようなもっとすごいものがつながっているようにも思いますが、これくらいのわかりやすい柔らかいキーワードで示すのは良いことだと思います。それと今回は理念の柱の話ということで、3つか4つかという話はあるにしても、整理すると分かりやすいということです。先ほどの目的の件ですが、目的を明確化すると、今度はそれを実現するためのプランができあがっ

てくるので、今回の皆さんが準備されたものはプラン作成にとっても、とても良い一枚一枚のカードになったのだと思っております。以上です。

会長：はい、ありがとうございます。

委員：ここから余談ですが、このまちの基本設計が、私の目からするとあまり上手ではなかったなと思うところがあります。私はこのまちに若い頃から暮らしておりましたが、多くの各省庁の研究機関が集まっていますが、広いエリアにそれぞれが散在していて、どこに誰がいるのかわからないのです。産総研の方とお話ししようとしても時間を決めて車でどこかに集まって会ってそしてまたさよならとするしかなく、本当はもっと集積させていかないといけないと思います。上手に集積できるようにしていけば日常的に「顔と顔が見える」という話も実現するかもしれません。私は、産総研の経営を評価する委員をしていますが、委員会や会合が終わったあとに、産総研の方々からも日常的に会えるような場を作ってくれませんかと言われることもあります。どうしてこのような話になるかと言いますと、例えばロボット分野などについて、大学にもロボットの分野がありますし、もちろん産総研にもありますし農研や他の機関にもあるかもしれません。私達はロボット研究者の忘年会を30年ほど開催しているのですが、そういった研究者の方々が顔を合わせる機会は年に1回しかないのです。ただ、世界の様々な会議に行った時につくばの人にそこで会うのです。せっかくこのような都市でありながら、なかなか集まりづらいので、人が集積されていく場や仕組みづくりをするのはとても素晴らしく、こういった取り組みを行う雰囲気すらが人を集めていくのだと思います。つくば市の内外でも、そういった場が一つできるのであれば、日常的にそこが活発な場となるのでそういうことが分かるキーワードを掲げ実現していくのが大切だと思います。

会長：はい、ありがとうございます。委員の御指摘通り私も大きく作りすぎたというか、オーバースペックになっていて、物理的に会うことも少なく、正直言って縦割りという構造が残っていて精神的にも壁があるというところは打破していくべきだと個人的に強く思います。

委員：委員から提案していただいたまちづくりの理念の3つの柱ですが、言葉が足されてとても分かりやすくなり、私達が目指すまちの姿やゴールを示していると思います。先ほど委員がおっしゃっていましたが、3つの柱が立体になり、それを私達が色々な方向から目指していくという風に私も思えるので、そのために未来を作る、「まち」というのは無くてもいいかなと思います。「未来を作る」「挑戦を応援する」「顔と顔が見える」という具体的な行動をすればこういうまちになっていくのだというのが分かりやすいかなと思いました。

会長：はい、ありがとうございます。確かに「まち」を外した方がより具体的に
なるかと思えます。他どうでしょうか。

委員：私は前回から参加させていただき、皆さんが一つ一つ議論されてここまで
きたのだらうと思っていたのですが、委員のこの3つの柱で今までの蓄積した
ものがすっきりしたなという印象です。一つ一つは非常に詰められていて大事
なことは述べているが、つくばが何を目指しているのか具体的に想像できにく
いというのが前回の感想でした。ところが未来・挑戦・顔と顔というのは今ま
での議論が凝縮されクローズアップされた非常にいい形で今までの議論を包
括してくださったと感じています。委員ありがとうございます。

会長：御意見を一つ二つくらいいただければと思いますがいかがでしょうか。今
後、来年度に向け具体的な計画を練っていくわけですが、先ほど市長からもお
話がありましたが、考え方を整理するというのが本年度の目標です。今日いた
だいた御意見を踏まえながら次回の会議にて修正後の理念を皆さんにお出し
たいと思います。本来ならば今日決めればよろしいのですが、今日いいプレ
ゼンをもらい、また委員からも意見を頂戴しましたので、議論を踏まえながら
次回提案をお出ししたいと思います。よろしいでしょうか。どうぞ委員お願い
します。

委員：戻ってしまうかもしれませんが、職員の方々からいただいたプレゼンなの
ですが、2030年の未来像ということなので、今からすると11年後だと思いま
す。今理念ということで、ここで議論しているわけですが、何事もそうだと思
うのですが、何かチャレンジや新しいことを始めて、例えばまちに行き渡るよ
うな汎用性の高いものになっていくには10年はかかると思います。だとする
と、ここに書かれていることは既につぶさにつくばの中を見て回ると、何か芽
が出ている、萌芽がある、もしないとすると11年後に果たしてこの理念を実
現する何かがこのまちの中に育っているかと思うと、もちろん理念を掲げるこ
とはすごく大事ですし、素晴らしくよくできたプレゼンだったと思うのです
が、是非、行政の職員の方だけがやることではないのかもしれませんが、この
萌芽、ひょっとしたらつくばのまちの中で芽を出しかけている構想や、実際
に何か始まっている取組といったものをピックアップしてくるということも同
時に必要なことなのではないかと思うので是非そういったものも合わせて理
念とともに提示できるようなものであるといいなと考えます。

会長：はい、ありがとうございます。では委員お願いします。

委員：この未来をつくるまちという3つはすごくわかりやすく大変よいと思っ
ておりまして、確かに包摂都市という言葉は難しいのでなかなかわからないの

ですが、包摂都市というのはソーシャルインクルージョンという意味が入っていると「皆が思いやって環境を作る」という意味だと思います。そうすると未来をつくるまちだけだと、ここのニュアンスが足りないかなとずっと考えております。反対するものではないのですが、少し足りないかなと思いました。

会長：他どうでしょうか。

委員：先ほどの委員の御指摘の部分ですが、社会的包摂について、社会的弱者の話もありましたが、そういった人達を孤独にさせない。例えば今でいうと高齢者の方、妊婦の方、そういった方たちを孤独にさせないといった福祉の大事なベースの考え方というの、「顔と顔が見える」という表現で気持ちが込めていければという風に思っております。このやり方は、高齢化社会が進めばこれからどんどん難しくなりますが、そこを、未来を作るという形で解決策を探るとか、そういった形での組み合わせ方、かつ、先ほど職員の方からのプレゼンがありましたが、未来像に紐付けができるのかなと個人的には思っております。

会長：はい、ありがとうございます。先ほど委員から御指摘をいただきまして、おっしゃるとおりだと思います。今回こういう目標を作っていく、あるいはバックキャスト的に作っていくというところで志は高くしているのですが、おっしゃった包含的なところを引き出していくというのは次年度からきっちりやっていきたいと思っております。総合計画というのはどちらかという目指すところが漠然としていて、それで終わりということもありますが、今回は御指摘通り種をきちんと伸ばしていくというところまで実施していきたいと思っております。よろしいでしょうか。ここで御意見をいただいて、次回私と事務局で相談して理念等はまとめていきたいと思っております。よろしいでしょうか。それでは議事を進めさせていただきたいと思っております。

【議事（2）将来フレーム推計の実施状況について】

会長：続いて、（2）将来フレーム推計の実施状況について事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料2を用いて（2）将来フレーム推計の実施状況について説明。）

会長：はい、ありがとうございます。2つのパターンをお示ししていただきましたが、いずれにしても厳しい財政になるということは御理解いただけるかと思っております。今つくば市は不交付団体ということで、全国1,500ある自治体の中で

も 30~40 くらいの非常に財政がいい状況です。今事務局から説明があったように、交付金ですとか様々な紐づけ等がありますので、健全な自由度を持った施策について、健全な財政状況を保つのは必須だと思っています。そういう観点からもこういった厳しい中でも色々な行政側の指南が必要かと思えます。本家本元の国も当然皆さん御承知の通り厳しいということですので、交付金が出てくるというのは不透明な状況だと思っております。

委員：この件に直接関係するかどうか分からないのですが、例えば 39 頁の今の人口推計のところで、分析と取り組みについて流れが見えてきていると思います。例えば人口を 2 倍にしようとしたらどうしたらいいのかという観点から考えた時に、その実現に向けた取り組みというのもまた一つ策としてできあがってくると思います。そういうディスカッションも方策を考えていく一つです。先ほどの「挑戦するまち」について言えば、外からの流入も含めイノベーション推進にチャレンジする、あるいはそれを応援する人や仕組みという話もあると思います。つくばに来れば何とかなるのではないかという、つくば市であればそういう人達が集まり活動し始める。例えば年間たかだか 50 社くらいのスタートアップが設立されたり集まるだけでも、御家族も含めればある程度まで人口も増えていくと思います。収益が上がっていなくても必ず生活をするのでそこには経済サイクルができてくる資金調達もあるでしょうからその地域の中でお金も回っていくと思います。そういう見方でこの町にチャレンジャーがどんどん集まってくるような場づくりというものが、この人口問題を含め全てが連動してくるのだと思います。つくばイノベーションエコシステムの事業プロデューサーもしていますが、さらに大きな枠組みでの作戦も大切だと思い、横からコメントをさせていただきました。

会長：はい、ありがとうございます。これはまず事務局の方からお願いします。

事務局：御指摘ありがとうございます。今回人口を考えるにあたって、まずつくばとして最大でどれくらい目指すのか、目指すべき数字から考える方法もあるのではないかということも議論しました。ただ一方で、現実的な問題として都市づくりの時の計画人口等がございまして、それらに基づいた、インフラの整備や、市街化区域の設定を行っているという状況からすると、実際に傾向を元にどれだけあり得るかということをもまず考えることが重要ではないか、ということはこの数字を出させていただいております。例えば人口を 2 倍にするとか目指すべき数字というものが、実際にやっていくとなるとかなり大きな変化というものを組み込んでいかなければいけないので、本当に実行するのかがどうか難しいところかと思っております。ある意味バックキャストिंगといいながらも現実的なところを今の状態では考えてやっているといったところで

ございます。答えになっているかわかりませんが、これまで検討してきた考えを御説明させていただきました。

委員：ありがとうございます。例えば筑波大学にいる1学年の約2,000人がそのままつくば市に住めば2,000人増えますが、その程度でしかない。これだけの規模のエリアがあり、山手線一つくらいの大きさのエリアなので、恐らく都市規模としてはもっといけるとは思います。大学についても筑波大学だけではなく、多様な人材、多様性ということを考えて時に色々な形の人材育成の仕組みがあっただけでいいはずで、ところてん方式の大学や教育機関の形ではなくても、まちのなかにちゃんと社会で活躍できる人達がどんどん新しい時代を開拓する人材育成の仕組みをつくるということもあると思います。このまちには、そういうことを受け入れる受容力・潜在能力・高度な人材が豊富に揃っているのですが、残念ながら毎年のように退職しては消えていく。一つのSDGsの姿かもしれませんが、そこを上手に活用するだけで、まさにそういったサイクルを作れるのです。こちらにつきましては、また何かの機会に市長に話ができればさせていただきますと思います。

事務局：ありがとうございます。このあとに土地利用構想についても御議論をいただきたいと思っているのですが、委員がおっしゃられたキャパの問題というのがあり、基本的に市街化区域や市街化調整区域の用途が定められ、計画人口等がある中で、本来ならば調整区域なども含めて考えていくともっといろいろとできるかもしれないですし、また新たなインフラ投資などが必要になってくるのは前提ですが、そういうものができるかもしれないと思っています。土地利用構想の中で、土地をどのように使っていくのかという方向性を示すのですが、今後つくば市が世界の中心となるような、世界に誇れるようなまちをつかっていく時にある意味柔軟な土地の使い方というものも必要になってくるのではないかとということであれば、そういったことを可能性として土地利用構想の中に入れていくという対応もあると考えています。つくばとしての伸びしろや可能性を伸ばしていけるような内容を土地利用にも盛り込んでいければと思っています。

会長：はい、ありがとうございます。今、委員からも御指摘いただきました人口問題に関してはまち・ひと・しごと等の様々な委員会で議論しているところです。たぶん私個人的には①の部分でもかなり厳しいかなという目標になっております。委員の御指摘通り大学と市が連携することにより、大学生の定着率を高めるということも必要だと思っています。最近試算したのですが、茨城県外から筑波大学に入りどの程度残るかということと2～3%です。要するに筑波大学による効果が4～5%ある。それを高めていくというのが非常に大事なかなと思

っております。それも家族も含め、卒業してこのまちに住みやすい環境を作っていく。これはつくば市もそうですし、大学も連携するということが大事だと思っています。他どうでしょうか。よろしいですか。一旦部長からも御説明がありました、土地利用に関して議論を進めさせていただければと思っています。

【議事（3）土地利用構想改定の検討状況について】

会長：続いて、（3）土地利用構想改定の検討状況について事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料3-1、3-2、3-3を用いて（3）土地利用構想改定の検討状況について説明。）

会長：はい、ありがとうございます。御質問・御意見ありますでしょうか。

委員：修正前の土地利用構想よりスマートになりわかりやすくなったと感じましたが、つくば駅周辺と研究学園駅周辺とで別の役割を持っていると思います。具体的にどう役割をわけているのかと思いました。イーアスの影響で研究学園駅の方が人気だといって移り住む人も多いという印象を受けているのですが、つくば駅をどう作っていくのか気になっているところです。もう一つ、ハブアンドスポークの考えがあったと思うのですが、周辺地域のコアがなく、割と広い場所があり、つくば市の北東の方は結構空いていると思うのですが、その地域との連携はどういう風に考えているのでしょうか。

会長：はい、ありがとうございます。事務局をお願いします。

事務局：54頁の下の方、「（イ）地区」という形でつくば中心市街地地区、そして研究学園駅周辺地区のそれぞれの役割について記載しているのですが、簡単に申し上げますとつくば駅周辺地区はつくば市の顔となる地区という形で商業・業務機能を始め、文化・芸術の拠点となる施設を集積し、景観・環境に配慮した質の高い土地利用を目指していくということで、商業・業務機能そういったものを始めとして、今あるものをより高めていく、そういった考え方で定めております。研究学園駅周辺地区については、今商業は結構集積してきていますが、今後は業務やコミュニティに関する機能、そういったものはまだ不足している状態です。つくば駅周辺ができあがって成熟していくまちである一方、研究学園駅周辺は成長途中のまちということで、今後様々な必要な機能等を加えていくという形でそれぞれ特性が違うという整理を行っております。ハ

ブアードスポークの考え方で 53 頁の図を御覧いただきたいのですが、拠点がない地域があるのではないかというお話で、今回既成市街地・地域生活拠点として紫で囲んだところは、それぞれの旧町村のかつての中心部になっています。その周辺の地域については基本的にはここにそれぞれ近い既成市街地・地域生活拠点に行けば必要な日常の機能というのは満たされるものとして整理をしております。ただそれ以上の機能、生活に必要なもの等については田園都市ゾーン、ハブの方まで移動してもらいそこで必要な機能・役割等についてはそこで充足するという整理をしております。それぞれを公共交通等で繋いでスムーズな移動ができるようにしていくような想定をしています。現時点でできているものとできていないものがありますが、今後やっていくこと等も含めそのような考え方の整理を行っております。

会長：よろしいですか。他どうでしょうか。

委員：土地利用の改定案の図を見てまして、一つこの住民としては土地利用の内容に関心があるといいますか、先ほども十何項目の内容がありましたが、具体的な方が普通の住民は興味があるというか、どのようにやってくれるのか、どういう風にしていったらいいのか、ということも非常に大事な内容であると私は思っています。一つここに主要道路が点線になっているのですが、つくばの中の主要道路がどう通っているのかというのは非常に土地利用や開発を進めていく上で重要だと思うので国道・県道・市道について実線で分かりやすく入れていった方がいいと思います。もう一つ、既成市街地・生活拠点地ということで、今回重点的に丸で表示し、わかりやすくしてくれたので、私はこの点非常に良い、重要な視点だったと思います。この既成市街地をより活発化する施策や土地利用というものをさらに考えて欲しいと思います。ですから住宅が TX 沿線にどんどん広がっていく傾向ですが、既成市街地のところも住宅を増やしていくという施策や土地利用を考えていくことで人が増える大きなものになると考えています。地価を考えても値段はかなり既成市街地の方が割安だと考えますので、そちらの方に広がっていく可能性がありますのでそういった土地利用の方法を市で考えていくということが必要ではないかと思っています。以上です。

会長：はい、ありがとうございます。

事務局：1 点目の御指摘で、道路のネットワークにつきまして、ネットワークを意識して点線で表記を行っているところですが、今回の御指摘を受け、再度検討したいと思います。周辺市街地の活性化については、周辺市街地振興室という組織の中で色々検討をしているところではありますが、今回の未来像やそれを実現するための戦略を考えていく上で今回御指摘あったような周辺市街地・

既成市街地で賑わいを作っていくにはどうしたらいいのか、そういった視点も受けて戦略等を考えていきたいと考えています。

会長：よろしいでしょうか。

委員：ハブアンドスポークの考え方ですが、例えば航空会社の場合はすごく簡単で、ハブ同士は大型機で、スポークとは小型機で、と最初から運行の手段が決まっていますからものすごく分かりやすいのですが、ピンク色のところを、公共交通を使って繋ぐとおっしゃっていましたが、もう少し市民の方にわかりやすく、例えば、バスですとか、まさか鉄道をひくわけではないと思いますが、もう少し具体的にどのような公共交通で繋ぐのか、コストは大丈夫なのか皆さん心配なさるかもしれないので、どの手段で繋ぐのか明確にさせていただくと将来的に分かりやすいのではないかと考えました。

会長：はい、ありがとうございます。

事務局：今回未来構想の中の土地利用構想は、概念図にとどまっているのですが、この考え方を受けて実際に公共交通はどのような形で整備していくのか、それに関連するようなものについてもその考え方に基づいて具体的に決めていくという形でそれぞれ役割分担できるようにしたいと考えておりますので、ここで考え方を示して具体的にどう移動させるか、どう整備をしていくかについては、それぞれ個別計画に落とし、合わせて考えていけるようにしたいと思いません。

会長：委員をお願いします。

委員：今日の全体の話と重なることですが、この地域の中で集積をさせていくとか、人が集まれる場を作っていくとか、あるいはイノベーションの取組を皆でやっていくようなそういったエリアを作ることについて、例えばすぐそこの研究学園駅のエリアもそうですが、今そこで開拓できそうな駅からすぐのところも含めて容積率が例えば200%とかそういったレベルになると集積させようとしても高さが稼げない。そうすると結局、横広がり歩いてはいけな場になって、車に乗って移動するといったその繰り返しになってしまいます。容積率を200%から400%にするとか、そういったところというのはつくば市で議論することなのかなと思っていますが、実際にはどこで議論をするのか知りたいです。それを聞いておかないと、まちづくりについて積極的に活動していく際に、外の組織の方々と話をするときに、つくば市の未来構想を実現するために、エリア開拓に関連して話題になります。それを前の市長の時からずっと相談してはいるのですが、はっきりしないまま今日に至っています。恐らく意思決定

できるはずだというのが私の考えなのですが、これはできるならがんばりますが、できないということでしたら、このまちで集積はできないということでそれはそれで考える必要があります。その辺を教えてください。

会長：事務局お願いします。

委員：委員ですが、事務局に代わって回答します。容積率については都市計画の用途地域で決められるのですが、用途地域の都市計画決定権は県知事ですよ。都市計画関係者はいませんか。

事務局：市です。

委員：では前は県だったのが今は市で。そうしますと例えば用途地域の住居系の用途だったら、アッパーが 200 とか、商業系だったら 400 とか定められていますのでその範囲の中で定めるしかないということになります。

委員：つくば市がどんどん変容している中で、例えば研究学園駅のエリアがこのように開拓されてきた段階で、実はそこに新しくこういった場を作らないといけなくなってきています。例えば、初期のつくば市の状況から現在の状態に変わってきているわけですが、これからこの市をどう育て皆で作っていくかについて、このようなつくば市の未来構想に合致した場の用途や容積率を変更することができれば、それをコアにして街を作っていく動きができると思うのですが、それは可能なのでしょうか。

委員：不可能ではないと思います。ただ、全体の都市計画の考え方を再整理しないといけないということになってくると思います。要するにそれぞれの用途によって例えば人口フレーム等が定まってくるので、そういった全体の計画に変更をきたしますのでそこを変えていかないとおそらく用途の変更も難しい話になると思います。

委員：何十年も前に作られたその時の計画が今の状況を縛っているとすると、つくば市の未来について議論をすることに本当に意味があるのか少し心配になります。未来に向けた舵取りが難しいのでは、何十年も前の計画でこのまちは生きていけばいいということになるのではないかと思うのです。私の思いはつくばはどんどんと進化しているまちだと思っていて、それに合わせて用途計画なども含め、柔軟に断続して調整していくのが地域に生きる人達の取組ではないのかなと思いますが、難しいものなのでしょうか。

委員：例えば未来構想を 10 年に 1 回くらいのスパンで見直しをかけている。その際に人口のあり方を再検討しているということですよ。例えば目標人口が

30万でしたら30万人分の用途地域の設定をしないといけません。住居系のキャパを30万受け入れられる用途を設定していかないといけません。もちろん30万の人口のフレーム設定をする場合はインフラがそれだけ対応可能かどうか、それだけ流せる下水道が整備できるのか。

委員：それは全体ですか。あるブロックについての話ですか。

委員：それは地域全体です。都市計画区域は地域全体になっていますので地域全体でそれを考えないといけません。そういう再整理をしながら用途の変更の見直しをします。

委員：確かに大変そうですね。できないようにも感じてしまいそうです。

委員：例えば、今まで住居系の用途があって、それを商業系にして400%にしようとした場合には、そこで住居系の用途地域が減ってしまうわけなのでそれをどこかに振り替えるとかすることにより全体の枠を確保するという作業をしないといけません。

委員：ということは用途地域の振り替えをすればできるということをおっしゃってくださっているという風に聞こえました。そういった取組を今は意思決定者として市ができるはずなので将来計画などを見据えた時に全体の枠を確保することをきちんとやっていくことがもしできるのであればということだと思います。なぜ私がこういうお話をさせていただいたかということ、これからスーパーシティ構想が動くと思いますが、自治体がどういう風に応募していくかという話と全部連動していきます。そこがそもそも開拓しづらいところだと応募していこうという話も難しいと思ったのですが、今のような調整ができるというご回答からしますと行政には考えがあるのかなと思ってお話をしました。

委員：個別に容積率だけを考えれば、たぶん公共空地を提供することによってこの部分だけ容積率を高くすることを認めるという制度もあった気がします。

会長：ありがとうございます。よろしいでしょうか。時間がきつくなってきたのですが、委員のおっしゃることもよく分かりますし、色々なバランスだとか緩和についてどうするかとか、様々な問題と絡むので、私もあまり勝手なことは言えない状況です。それでは時間が押してきましたのでこの辺で議論を終わりにしてその他にいきたいと思います。

4 閉会

会長：最後に、今後の審議会のスケジュールについて説明をお願いいたします。

事務局：来年度の策定委員会につきましては、5月上旬を予定しておりますが、改めて出席依頼及び参加要請をさせていただきます。会議の内容としましては、未来構想中間取りまとめ（案）、戦略プラン策定方針、未来構想キャラバン、現戦略プランの振り返り等について議題とする予定です。この件については改めて御連絡させていただきますので、引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。なお、年度が新しくなるにあたり、委員の交代等がある場合は、後日でも構いませんので、事務局まで御連絡いただければと思います。スケジュールにつきましては、以上です。

会長：ありがとうございました。これまでの所で言い漏らしたこと、御質問・御意見がございましたらお願いいたします。ほかに御質問はありませんか。以上で全ての議事が終了となります。

副会長：私も審議会に参加させていただきまして、今日のような委員から御提案いただいた件、このような形ですごく気持ちがすっきりしたのは初めてです。分かりやすく理解できました。話は変わるのですが、今日午前中は中学校の卒業式がありまして、市長共々ある中学校の卒業式に出ていたのですが、ちょうどその時に市長が子供達に送ったメッセージが、15歳で卒業する子供達がこの未来構想を向かえる時代の一番いい時期になるわけです。今日委員からお話ししていただいたことが自分の中にずっと入ってきてこれはひょっとすると、少し古くさい言い方ですが、忘れかけていたような助け合いがこの中に盛り込まれていまして、恐らくそれが優しさ・心の成熟というものに繋がっていくのかなというような気がしました。この審議会は年度が代わって新しい歩みになると思うのですが、非常に期待しており、土地の問題を含めまして、色々可能性を見いだす審議会になればいいなと思います。今日は未来を感じられる審議会でした。ありがとうございました。

会長：それでは議題を全て終了しました。

事務局：会長及び皆様におかれましては、長時間にわたり御議論いただきまして大変ありがとうございました。先ほどからありますように、本年度はこれで最後になります。次年度は5月くらい開催を予定しておりますので、また御協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。それでは以上をもちまして、本日の第5回つくば市未来構想等審議会を閉会いたします。皆様、お疲れ様でした。

